
class...

桜実保乃佳

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

class...

【Nコード】

N7948L

【作者名】

桜実保乃佳

【あらすじ】

これは中学校の頃のお話：

蘭

私と新一は同じクラスに慣れなかった
ただそれだけで毎日が変わっていく

この話は作者の体験談です

CPは新×蘭です

嫌な人はBACKお願いします

File 1：少しの期待 蘭side （前書き）

あまり長く続かない話だと思います：
評価・感想・ダメだしお待ちしております！

File 1：少しの期待 蘭side

私の今日は中学校の入学式

『新一と同じクラスに慣れるかな』

少しの期待を膨らませた胸…

新しい制服

初めての制服…

「ら〜ん!!」

おっはよ〜」

今、声を掛けた人は私の小学校いえ、それよりもっと深い存在かも
しれない

鈴木園子…

少しの不安と少しの期待を持って私達は中学校に向かった

中学校

「あ！

私と蘭、同じクラスだよ!!」

園子が嬉しそうな声を出した

「ホント!」

私は、クラス名簿を見た

「1 - A」

『鈴木園子』

『毛利 蘭』

少しだけ笑顔がほころぶ…

『新一、新一はどこかな…。』

A組の名簿を見たけど新一の名前はどこにも載っていなかった

File 1：少しの期待 蘭side（後書き）

Happy「Hello!!」

蘭「結構連載小説書くのね…。」

園子「っていつか書きすぎじゃない?」

Happy「そこは作者の自由だからさ!!」

蘭・園「次回も宜しくね!!」

平成22年6/4 Happy & Lucky

File 2：同じクラスじゃない 蘭side

私が唾然としていると

「蘭！

ダンナとは同じクラスになれたの！？」

園子が聞く

「…ダメだった

まあ、1年だけだし

どうにかなるって！！」

私は無理やり笑顔を作った

「よう！

蘭、園子！！」

新一！？

後ろから私の昔からの幼馴染で、友達の工藤新一

新一はクラス名簿を見て

「俺はB組

蘭と園子はA組か…。

ま、1年だけだからさ…。」

新一は二カりと笑うとポンツと私の頭の上を軽く叩いて自分の教室に入っていた

私と園子も教室に向かった

でも信じられなかった

この小さな出来事が大きな出来事になっていくなんて

File 2：同じクラスじゃない 蘭side (後書き)

Happy「どうも」

新一「蘭と同じクラスになれなかった…。」

Happy「どんまい!!」

新一「次回も宜しくな!!」

平成22年6/4 Happy & Lucky

File 3：入学式 蘭side

私達が教室に入って5分後

「ねえ、私と友達にならない？」

1人の女の子が私と園子の前にやって来た
でも

うわ！

小さい…

見た目で130cmくらい…

小学3年生くらいだな…

「良いよ！！」

私は毛利蘭！

宜しくね！！」

「私は鈴木園子よ！

宜しくね！！」

私と園子は自己紹介をした

「私は水気朋！
みなぎとも

皆からは「とも」って呼ばれてるの！
宜しくね！！

あと、背が小さいのは
生まれつきだから気にしないでね！

あと私からも友達を紹介したいの！！

みー！

しーちゃん！

おいでよー！！」

朋ちゃんは友達を2人連れてきた

「髪が長い方が毛利蘭さんで

カチューシャの人が鈴木園子さん！」

2人の女の子私達のコトを紹介している

「私の名前は名橋^{なはし}美華

あだ名は「みー」でも、そうやって呼んでいいのは朋と志菜だけだから…。

私のコトは「みか」って呼んでね？」

「うん！

宜しくね」

私と美華ちゃんは握手をした

「橘川^{きつかわ}志菜

あだ名は「しーちゃん」ですが、みーも言ったとおりそう呼んでいいのは

朋とみーだけです…。

まあ、宜しくです…。」

私と園子はスグ3人と仲良くなった

そのとき

「おはようございます！」

今日は、皆さんが待ちに待った入学式です！

中学生という気持ちをしっかり持って頑張ってください！」

生徒と担任なのかな？

分からないけど先生が入ってきて

「廊下に並んでください！」

皆は廊下に並んだ

そして体育館に向かった

入って整列する

「これから平成19年度帝丹中学校入学式を始めます。」

校長先生や生徒会長さんの話が終わって

「次は担任の先生・副担任の紹介です…。」

誰かがそういうと5・6人くらいの先生がステージの前に出てきた

「まず1 - Aの担任の先生は『速水真知子^{はやみちこ}』先生です！」

担任の先生が「宜しくお願いします」という感じでお辞儀をした

私の担任の先生…

「私の担任の先生か」

小さい声でつぶやいた

「次に1 - Bの担任は『名菜氣裕希^{ななきゆうき}』先生です！」

新一の担任の先生か…

「新一のところは男の先生なんだ…。」

私はもう1度小さい声でつぶやいた…

それからC・D組の担任と副担任の紹介が終わり私達は整列したまま教室に戻った

File 3：入学式 蘭side （後書き）

Happy「今日はオリキャラさん〓蘭の友達に来てもらいました
！」

朋「どうもー！」

美華「イエーイー！」

志菜「始めまして…。」

Happy「オリキャラの名前は友達の名前がモデルあだなになっています
！」

朋「へーそうなんだ。」

志菜「ちと、ビックリ！」

美華「偶然もあるんだね…。」

Happy「そうですね…（自分が考えた名前だろー！）」

朋「あたしらこれからも登場するシーンってあるの？」

美華「うんうん」

志菜「そこまでして出たいか？」

朋・美「うんー！」

Happy「多分出るんじゃないかな？」

朋・美「やった〜」

志菜「次回も宜しくね!!」

平成22年6/5 Happy & Lucky

File 4：新一「俺のクラス 新一 side

俺は入学式を終えて1 - Bのクラスに戻った

席に着くと

「よッ!!」

スゲーボーイッシュな女子生徒が話しかけていた

「アタシの名前は木谷涼美^{きやすずみ}！

ヨロシク!!」

出席番号の関係で席が1番前！

だから後ろの君に話しかけたんだ
名前は何ていうの？」

木谷が俺に名前を聞いた

「俺は工藤新一。

ヨロシクな！」

一応自己紹介をした

「工藤君は、何か親友とか、友達とクラス別れちゃった？」

…蘭くらいか…

「1人居るぜ…」。

毛利蘭ってヤツ…」。

俺の小さい頃からの幼馴染…

泣き虫で・でも空手習っててスゲー怒ると怖いんだ！」

蘭のコトを話し終えると

「へえ…」。

じゃあ、工藤君はその毛利蘭さんのコトが好きなんだ…」

ニコニコしながらいう木谷…

「バツ！バーロー／／／
んなじゃねーよ！！」

ついついあんな風に言ってしまう

いえるかよ…

俺が蘭アイツのコトが好きだって…

「私も居るんだよ…」。

水気朋って人と

名橋美華って人と

橘川志菜って言う人がね…」。

『結構多いな…』。

俺は思った

それから（まあ、1・2日くらいだけど）俺は席順の関係もあって
木谷とよく話すようになった

結構、話の合うやつで面白いヤツだった

File 4：新一「俺のクラス 新一side（後書き）」

Happy「新一と涼美に来てもらいました!!」

新一「どうも…。」

涼美「やつほー!!」

Happy「涼美って言う名前も私の友達が名前のモデルなの!!」

涼美「へえ…。」

新一「次回もヨロシクな!!」

Happy「評価・感想お待ちしております!!」

涼美「ばいばい!!」

平成22年6/5 Happy & Lucky

File 5：誰？ 蘭side

私と園子と入学式のとくに話しかけてきた子の3人はいつも行動はともにするようになっていた

入学して4日目の休み時間

「蘭ちゃん!!」

「やつほ!!」

「...」

3人が私と園子の前にやってきた

これはいつものコト...

でも今日は違った

「ねえ、蘭、あれ新一君じゃない？」

園子が私の肩を叩いて廊下を指す

「あ。

ホントだ...。

あれ？」

新一だ...

「涼美もやるよねえ」

美華ちゃんがいう

「え??」

私は美華ちゃんに聞き返す

「あの子、私達と幼馴染で木谷涼美って言うんだ。
恋しちゃった??」

志菜ちゃんが少し笑って言う

「新一。。」

私は小さくつぶやいた

『木谷涼美。。』

許せないわ!!

蘭の新一君を……!!!!』

園子はこんなコトを思っていたらしいの……（後日談）

F i l e 5 : 誰 ? 蘭 s i d e (後書き)

H a p p y 「お早うゴザイマス!!」

涼美 「何か段々やばくなっていく感じ?」

H a p p y 「さあ?」

涼美 「まあ良いや!!」

次回もヨロシクね
」

平成22年6 / 6 H a p p y & L u c k y

File 6：屋上にて 涼美side (前書き)

初めてのオリキャラさんsideです!!
至らない点もあるかとは思いますがまあ、読んで見て下さい!!

File 6：屋上にて 涼美side

アタシは今、屋上に居る

なぜか工藤君も…

そしてカチューシャのつけた強気系の女の子とロングヘアーの女の子

更にアタシの幼馴染の朋・志菜・美華がいた

「ねえねえ、涼って工藤君のコト好きなの??」

朋が聞いてきた

「ハア???」

何を聞くかと思いきや…

イキナリ工藤君のコトが好きか??

意味わかんない!

「何で??」

アタシが聞くと

「工藤君は蘭の夫なんだからね!!
奪うなんて許されないから!!」

カチューシャの付けた女の子がアタシに言う

プチン…

もう我慢できない！！

話しかけただけで恋人奪い扱いされちゃ…

「アタシはただ単に話しかけただけでしょ！？

友達になろうとしただけなのに！！

何でそこからアタシがまるでそのロングヘアの女の子の恋人奪い扱いされなきゃいけないの！？

いい加減なコト言わないで！！！！」

こうなるに決まってるでしょ！！！！

アタシは思いつきり怒鳴ってやった

ムカツクから…！！

「ね？」

と志菜

「だから言わない方が良いつていったじゃん！！」

と美華

「そう、ならいいけど…

これからは新一君を蘭から奪わないでよ！！！！」

クウツ!!!

悔しいイイ!!

「そんなに話しかけたらいけないくらい悪いコトでもあるの!?!」

アタシは言った

「え?？」

強気の女の子が聞き返す

「別に友達を作ろーが

仲良くしよーが

その人の勝手でしょ!?

悪いことでもあるなら話は別だけど…

友達を作ってはいけないって言う制限は貴女が言う権利はないわ
!?!」

「う…。」

カチューシャの女の子は言葉に詰まっていた

そうこれが正しい…

別に人に友達を制限される方が間違っている…

自由に友達を作る

そんなの当たり前…

「そ・れ・に

アタシは工藤君から全部聞いてるのよ!」

「え??」

ロングヘアーの女の子が聞く

「入学式ときに工藤君と幼馴染の話で盛り上がったときに…
工藤君は貴女のコト幸せそうに話していた…。
だからアタシは貴女^{オトコ}の彼に手を出すつもりは無いから!」

アタシは言った

全くその通りだったから…

「ありがとう。」

ロングヘアーの女の子はアタシに礼を言った

File 6：屋上にて 涼美side (後書き)

Happy「うわ!!」

言うコト言い放題!!」

涼美「そうかな?」

Happy「アタシの友達とそっくりだよ...」。

涼美「ホント?」

Happy「うん!!」

涼美「次回もヨロシクね!!」

平成22年6/7 Happy & Lucky

File 7：部活選び 朋side （前書き）

注意事項！！

その1：そっちゃんは朋がつけた園子のあだ名です！

ニッケームに関しての苦情は受け付けませんので…

その2：帝丹中学のコトはさっぱり分かりませんが空手部は無いというコトになっております！

以上2つのコトが承知できる人だけどうぞ…

ちなみに苦情は受け付けておりませんのでご了承ください

File 7：部活選び 朋side

アタシ・みー・しーちゃん・涼美・蘭・そっちゃんは

アタシの家に来ていた

アタシが「遊ぼッ!!」って誘ったから…

みーもしーちゃんもあまり自分から友達を誘う方ではない…
むしろ誘われる方だ…

おっといけないいけない…

話題がそれちゃった…

今日皆で遊ぼう!!

といったのはただ単に遊びたいからだけでは無かった

そう中学校には言ってまず最初にある大きいコト…

それは

部活選び…

というわけでアタシらは今に至る…

「ねえねえ、部活決まった??」

「あ、私は今のところ吹奏楽部かな？」

しーちゃんが考えるようにいう

「私決まってない!!」

大きく手を上げて言うみー…

相変わらずだな…

いつも難しく考えるのは苦手で気楽な人…

「アタシも吹奏楽だよ!」

涼美…

「私はどうしようかしら…。
テニス部でも入ろうかな…。」

そっちゃんテニスなんだ…

以外かも…

「私は…
空手があつたら空手部なんだけどな…。」

「え??」

聞き返すアタシ

「蘭は空手を習ってるのよ…。」

そっちゃん、それってマジですか？？

ツエエ…

怒ったらメチャ怖そう…

「ケド、帝丹中学には空手部は無いよ…。」
しーちゃんがいう

「私も吹奏楽部に入部しようかな…。」

蘭が言うと

「えゝ！！

蘭が吹奏楽行くんならアタシもアタシも！！」

そっちゃん…

まるで蘭がいないとダメだって言い方だよ明らかにその言い方は…

「ケド、まあ今すぐ決めろってワケじゃないから気長に考えよう！
！！」

みー…

ま、そうなんだけどね!!

でも、みーよりアタシは気長に考えないから…

まず考える時間ないかも…

File 7：部活選び 朋side（後書き）

Happy「こんばんわ!!」

朋「みてホント気楽だ!!」

Happy「ホントだね!!」

朋「作者は気長なほう?」

Happy「うん!!」

決めなきゃいけないことがあったらすぐ決める!!」

朋「だよね」

Happy「ウチの友達にも似た人がいるよ!!」

朋「そうなんだ!!」

H・朋「次回もヨロシクね!!」

平成22年6/8 Happy & Lucky

F i l e 8 : 私 も 一 緒 に 入 部 し ま す ! !

志 菜 s i d e (前 書 き)

注 意 事 項 2 ! !

園 ち ゃ ん は 志 菜 が つ け た あ だ 名 で す ! !

File 8：私も一緒に入部します！！

志菜side

私たちの手元には1枚の紙がある

『入部届け』

やはり…

私は何にしよう…

吹奏楽部？

美術部？

バト部？

はあ…

こういうときに

「部活どーするの…。」

って聞くのがNice！！

「アタシはやっぱり吹奏楽！！」

朋は吹奏楽ね…

「うちもかな…。」

みーも吹奏楽か…

「私も一応第1希望は吹奏楽部かな…。」

「私も…。」

蘭と園ちゃんもか…

「私も吹奏楽部入部しようかな…。」

「ホント?!?!?」

じゃ、これで幼馴染4人！
全員同じ部活だね!!」

朋…

「朋、テンション高ッ!!」

み…

「でも、涼美ちゃんは?」

確かに…

蘭の言うとおりだ…

「あ、大丈夫!!」

涼も吹奏楽部だから!!」

と朋…

「なら良かったわね!!」

園ちゃん…

こうして私達は入部届けに記入と印鑑を押してもらい入部届けを提出した

File 8：私も一緒に入部します！！

志菜side（後書き）

Happy「こんばんわ！！」

志菜「どうも…。」

Happy「今日は志菜さんに来ていただきました！！」

志菜「私ココに1人で来たの初めて…。」

Happy「そうだね…！！」

あと1人で出てないのは美華だけかな？
オリキャラで言ったら…。」

志菜「そうだね…！！」

Happy「中学校は楽しい？？」

志菜「ええ…。」

結構楽しめてます…。」

Happy「別に敬語じゃなくて良いのに…。」

志菜「良いの良いの！！」

次回もヨロシクね！！」

Happy「あ、初めて敬語じゃなくなった…。」

志菜「バイバイ！！」

平成
22
年
6
/
9

H
a
p
p
y

&

L
u
c
k
y

File 9：変わってしまったコト 蘭side

今日の2時間目は音楽

だから音楽室…

キンコーンカーンコーン

チャイムが鳴った

「きりーっ、」

「これで2時間目の授業を終わります…。」

クラス委員長が号令をかけて音楽の授業が終わった

「蘭!!」

戻るッ
」

朋ちゃんが私の元に来て

園子と美華ちゃんと、志菜ちゃんが一緒になって教室に帰った

帰ってる途中に

廊下で新一を見かけた

私達の居る方向に向かってくる

他の男子生徒と一緒に

っていつでも1人だけだけど…

「新一!!」

私は新一に声を掛けた

新一反応してくれるかな？

手まで振ってくれたりして…

私は…

そのとき

期待しすぎてしまったのかも知れない…

スッ
…

新一は私に反応するコトもなく

私の横をスルリと通り過ぎて行つた

「え？」

声が聞こえなかったのかな？

「新一！！」

今より少しだけ大きい声で新一の名を呼ぶ

.....。

反応が無い

今、新一、私のコト“無視”した……？

File 9：変わってしまったコト 蘭side (後書き)

Happy「新一は蘭を無視!？」

蘭「どうしちゃったのかな…。」

Happy「さあ？」

蘭「次回もよろしくね」

平成22年6/11 Happy & Lucky

File 10：嫌いなもの？ 美華 side

蘭は教室に戻ると自分の席に座ったままショック状態に陥っていて動かなかった

朋・園子ちゃん・しーちゃんが励ましてたけどすでに魂がなくなっています状態…

授業だけはちゃんと受けていたようだけど…

そして帰りのHRが終了して今日から開始する部活の部屋へと急いだでも私ッたらうつかりしちゃって

今日は部活が無かった

部活は明日からだった…

1人でなんか体力つかっちゃったな〜って思いながら帰路に付いたそのときに

「なあ、オメーって蘭の友達か？」

と1人の少年が私に話しかけてきた

「うん。

貴方は？」

私は聞き返す

「俺は蘭の幼馴染の工藤新一。
ちよつといいか？」

うゝん面倒くさいな…

まあ、いいや！

「うん！

いいよ！！

ところで私も聞きたいんだけどさ

工藤君って蘭ちゃんのコト嫌いなの？」

私は聞いた

工藤君は黙っていた…

ま、私は正直どうでもよかったけど…

聞いてみるのも悪くないかな？？って思ったんだよねゝ

File 10：嫌いなもの？ 美華side（後書き）

Happy「お久しぶりです!!」

美華「初めまして」

登場するのは初めてだ！

1人で!!」

Happy「そうだね」

っていうか、おっちょこちょいだね…。」

美華「ハハハ」。

まあ、ソコは気にしない!」

Happy「ホント私の友達にそっくり…（呆れ）」

美華「次回もよろしく」

評価・感想心よりお待ちしております!!

平成22年6/18 Happy & Lucky

File 11：嫌いじゃない 新一 side

俺は場所を変えて今、喫茶店に来ていた

名橋と一緒に…

名橋は平気で注文したアイスコーヒーを飲んでいる

ジャンケンに負けたから代金を支払うのは俺…

金がない…

「ところで、もう1回質問するけど工藤君は蘭ちゃんのコトが嫌いなのか？」

名橋が聞く

別に嫌いってワケじゃないけど…

何かちよつとな…

「別に嫌いってワケじゃねえんだ…」。

でも、大きい声で

『新一』って呼ばれたら恥ずかしくて返事返せないじゃねえか／＼」

「じゃあ、要するに工藤君は蘭ちゃんのコトが好きなんだ！…！」

な・名橋！！！！

「あれ？

違うの！？

でも好きであれ嫌いであれ今の気持ちを蘭ちゃんに伝えなさいよ！！！！

蘭ちゃんとしてもショック受けてたから！！

『私は新一に嫌われてるかもしれない……。』って言っていたからさ！！！！

じゃあ工藤君、いつ、蘭ちゃんに言うの？」

何時が良いか…

明日で良いか！！

「明日の昼休みに言うよ！！
サンキューな名橋！！」

俺は礼を言った

そのとき

「チョコレートパフェお待たせいたしました。」

へ？

俺頼んでねーし…

「あゝ。」

何かの間違…」

俺が言いかけたとき

「いっただつきまゝす!!」

名橋が俺の目の前で美味そうにパフェを食っていた…

「名橋…

俺、金ねえんだけど…。」

「だってお腹すいちゃって…

ま、成長期だからしょうがないよ!!」

名橋はそのままバクバクパフェを食った後

笑顔で

「工藤君!

ご馳走様でした!!」

と言って帰っていった…

俺はその後

金がなく会計した後

金欠になった…

名橋はホントに気楽なヤツだと分かった…

File 11：嫌いじゃない 新一 side （後書き）

Happy「お早うございます!!」

美華「ってホントに気楽だもんね」

新一「ホントだぜ…。」

Happy「かと言って美華をそんな風に言うなんて許せない!!」

御仕置きしてやるゝ!!」

新一「オメーから言い出したことだろゝ!!」

Happy「関係ない!!」

新一「次回もよろしくな!!」

新一 脱走（逃げる）

Happy 追いかける

評価・感想・心よりお待ちしております!!

平成22年6/19 Happy & Lucky

F i l e 1 2 : 良 かつ た ! !

蘭 s i d e (前 書 き)

あと、 1 ・ 2 話 位 で 完 結 かな ?

File 12：良かった！！ 蘭side

私は新一に呼び出された

屋上に…

何か用でもあるのかな？

そんなコトを思いながら屋上へと向かった

屋上

新一は屋上から街を見ていた

「新一…。」

私が呼びかけると

「よお！

蘭、来たか。」

新一は私のほうに来た

「何…か用があるんだよね??」

私が聞くと新一はうなずいた

「俺、昨日、蘭オメーのコト無視しちゃったな…。」

ゴメン。

別にオメーを嫌ったわけじゃねーんだ…。
ダチも一緒だったから少し緊張っつーか、恥ずかしくて…
何か、からかわれたりされるのが嫌で避けちまったんだ。
ゴメンな…。」

新一…

「ううん！！

別にいいの！！

ただ新一が昨日私のコト避けていたから
私が嫌われたらどうしようって思ってたんだ！！
良かった！！」

良かった！

新一が私のコト避けてなくて！！

「蘭、俺、こんなところで言うのもなんだけど…
俺は、^{オメー}蘭のコトが…。
ずっと小さいときから好きだったんだ！！！！／＼／」

へえ…。

新一、私のコト好きだったんだ…

って

「ええええええ

ッ！？」

File 12：良かった！！ 蘭side（後書き）

Happy「良かったのは良いけど…。」

蘭「イキナリ告白されちゃった／＼／」

Happy「次回どうなる？」

蘭「次回もよろしくね！！」

平成22年6／19 Happy & Lucky

File 13:好き 新side (前書き)

完結です

File 13：好き 新side

蘭は驚いていた

ま、驚いて当然だ…

「私のコトが！！！」

「ああ…。

愛してる。

この地球上の中で一番。」

蘭はどういった返事をくれるんだ…

「…った」

「え??？」

聞き返す俺

「良かった！！

私も新一のコト好きだったの／／／／
だから嬉しいよ…。」

蘭は笑顔でOKの返事をくれた

「蘭…。

ありがとう…。」

そのとき

「キャア？

ちよつと押さないで
ウワツ！！」

どっしーん

「園子！？

名橋・木谷…。」

の3人ともう3人が出てきた

「蘭！！

良かったね！！

新一君！

アンタ、蘭を幸せにしてあげなさいよ！？」

園子…

「わあつてる！！

俺は一生、蘭を大切にする！！」

「ヒューー!!」

カッコイイ!!」

あ…

園子だけじゃなかったんだこの場に居るのは…

俺らはこの後昼休みが終わるまで冷やかされた

でも何となく嬉しかった

File 13：好き 新一 side （後書き）

Happy「ども」

ついに完結です！！」

新一「今まで有難うございました！！」

蘭「短かったんじゃない？

連載してた期間。」

園子「確かに…。」

涼美「でも楽しかった！！」

志菜「そうだね。」

美華「これからどんな作品を書くの？？」

朋「知りたい知りたい！！」

Happy「まだ決まってるの…。」

全員「え〜〜〜〜ツ！？」

Happy「気が向いたら書こうかな？

それにまだ連載2作品残ってるし…。」

それに今は短編を中心的にしようかって…。」

全員「…」

Happy「これからもよろしく願います!!」

短い期間でしたが有難うございました!!」

全員（作者も含む）「ではでは」

今まで本当に有難うございました!!

これからも応援よろしく願います!!

平成22年6/19 Happy & Lucky

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7948/>

class...

2011年2月15日06時09分発行